

高野伸生委員 自民党の高野です。

今の永井委員の関連質疑になるんですけれども、全く理解できない、この中期財政収支のこの議論ですけども、これ今、市政改革室と担当事業局と真っ向から対峙してこれ議論してるわけなんですけれども、議論が真っ当な議論であればいいんですが、とてつもない、とんちんかんな議論やってるような気がする。これは、きょうは1つだけ例として出させてもらいたいと思います。

実は、私も南港ポートタウンに住んでおりますが、ごみの空気輸送を廃止するというので、それも何ともう平成 25 年度から実施する目標で、今議論をしているということなんです。

このまちは、昭和 50 年代の初めにまち開きしました。まち開きしたんは、これ港湾局が造成埋立して、そして、新しいテクノポート大阪に関連するニュータウン、コンセプトの全く新しいまちだということいろいろ入居者を促進募集したんですよね。その主なキャッチフレーズが4つあるんです。

1つは、ノーカーゾーンの実施。車をまちの中へ入れない。これは一時期つぶれかかってましたけども、今は住民の皆さんの協力を得て、うまく運用されて実施されております。

2番目が新交通システム。これは御存じのようにニュートラムですね。新しい交通システムを導入する。

3番目、ごみ空気輸送の実施。これが、今回の問題なんです。

そして、4番目に、新しい公的病院の設置。これは皆さんも御存じのように、この 20 年、30 年間、この議会で毎回議論されてますが、いまだにこれ実現されておられません。

こんなことを港湾局はいろんな分譲マンションのパンフレットやら、こんなんいっぱい刷って、3万人の人を入居してもらうのに集めたわけですよ。自分たちが呼び込んどいて、それを突然市民の意見も聞かんと、これやめるてどういうことなんですか、これ。それもコストだけの議論してるんですよね。やめたら何ぼ。今、管を耐用年数来たからやりかえるいうたら、何ぼ、80 億。やめても撤去するだけやったら 50 億。これ全く解せないんですよね。

それと、これ管路輸送の内部資料ですか、これ。PT チームから上がってきた資料読みますと、「今回の管路輸送の見直しの原点は、分別することなく一括して管路輸送することは、減量リサイクルといった現代の社会環境に適用していないと考えられることから事業を廃止する」とこう書いてあるんですよね。分別は、これしてるんですよ。分別してるんですよ、これ。うちの家内もこれ分別してますよ。ペットボトルや、何ですか、これ瓶ですか。これ自主的にやってるんですよ、マンションの管理組合が。ただ、知らないで投入してる人も確かに一部おられると思いますけど。そういうことを、何か頭から分別せんと、何でも空気輸送でぼんぼんほりたおしているということ。

それで、一番、これ皆さんも知らないですけども、ごみの空気輸送というのは、確かに大阪市の市道の下やとか、港湾局の道路の下、いわゆる幹線にそういう大きな空気輸送の管が走ってますけど、そこに集まるまでの枝管、いわゆる枝の管ですよ。この一部はマンションの中にもう組み込まれてるわけですよ。マンションの人は、そこでごみ投入して、その自分とこの真下の空気輸送をためる貯留管がありまして、そこからいわゆる幹線に送り込まれてる。この費用は、だれが負担してるのかいうたら、入居したときに、分譲マンション買うときに、その費用を共有部分の一部として、例えば300戸のマンションやったら300分の1のその輸送管の費用を案分して、1人ずつ皆支払ってるんですよ。これやめる言うたら、この分住民に返さなきゃあきまへんで。住民訴訟起きますよ、これ。

そういうことも何の議論もせんとね、こういう資料上がってきて、25年度から実施時期と書いてあるから。私は唖然としたんですけど。当然、パブリックコメントやる、何ですか、これからオープン議論やるとか、いろんなこと言うてますが。まず、そやけど、ほんまにこれそういうぐあいにするんやったら、住民の意見を聞かなだめじゃないですか。

だから、すべて今回のこのPT試案の話はね、もう頭ごなしなんですよ。橋下市長の顔色ばかり見てね、何かスピーディに物事やった。自分たちが成果をつくる。実績をつくる。それだけの話なんです。そんなことを3万人の住民を巻き込んで、自分たちが呼び込んできた、こういう施策をあしたから廃止するって、そんなけしからんことおまへんで、これ。ちゃいます。室長、ちょっと教えてくださいな。

谷川市政改革室長 今回明らかにさせていただきましたのは、私ども改革プロジェクトチームとしての試案、試みの案でございます、大阪市の案というものではございませんが、先ほど委員からも御指摘ございましたが、市民生活に直接かかわるものであると、こういったこともございますので、成案の段階ではなく、試案、試みの案の段階から公表し、より多くの議論の時間を確保して、さまざまな御意見をお伺いしながら、よりよきものにしていく。そういうプロセスをとることといたしまして、ほかの改革の取り組みに先行して取りまとめて公表させていただいたところでございます。

高野伸生委員 それとね、担当事業局ですか。事業部局とPTの部局と話し合いするのは結構ですけどね、こういう住民全体にかかわる問題ね、まち開きした、これ一番の責任者というか、統括責任者は、これやっぱり港湾局ですよ。港湾局がまちつくったんですから。環事と話してるんですよ。今になって、そういう、当時何億かかったんか知りませんが、そういう管路輸送体制をつくった、設備を投入した。でも、もうそれから大方35年たってるんですよ。でも、その間、何の減価償却も、積み立てもやってへんというのも、これもね、ちょっと私は信じられへんのですけど。これ市長も、これこないだ新聞出てましたけど、市長自身も、こないだ

設備更新のこと何も考えてなかったんか言うて、何か苦笑いしてたいう話は新聞に書いてありますけど。

だから、それもね、やっぱりもっと正直なことを、我々に言うてくださいよ。ほんまにそんなんしてなかったんか。あるいは品目を変えて、どっかでそういう金額が隠れてるのかね。オープンじゃないですよ。これがほんまのオープン議論だと、私は思うんですけどね。どうですか、室長。

谷川市政改革室長 試案の段階で公表させていただいております。これから、さまざまな御意見を承りながら、いろいろ御議論もさせていただく予定といたしておりますので、その際には、委員御指摘のように、さまざまな局での検討状況なり、あるいは過去のいきさつなり、そういったものについては明らかにした上で、議論を重ねてまいりたいというふうに考えております。

高野伸生委員 きょうは各個別のことについては触れないということで、総括的な議論が中心になってますけども、やっぱり一つ一つとっても、それぞれの事情があり、それぞれの経緯があって、そういう住民サービスとして大阪市がやってきたわけですから、それを削るなり、廃止するなりなった場合に、それなりのやっぱり住民が納得する説明、そして、それなりのやっぱりコミュニケーションをとりながら、そういう施策の変更というのをやっぱりやらなきゃだめだと思います。頭ごなしは絶対だめです。以上申し添えまして、私の質疑を終わらせていただきます。